

**研究主題** **豊かに生きる力の育成**  
**～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～**





**1 単元名 東京都の特色ある地域**

**小単元名 「環境を守る小笠原」**

**2 小単元の目標**

- ・豊かな自然環境を保護・活用している小笠原について、その位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、スライド資料にまとめる。小笠原の地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、小笠原村では人々が協力し、世界自然遺産に指定された豊かな自然を保護・活用しながら、観光など産業の発展に努めていることを理解できるようにする。
- ・豊かな自然環境を保護・活用している小笠原村について、主体的に学習問題を追究、解決しようとする態度を養うとともに、東京都民の一人として、小笠原の自然環境のすばらしさや、それを守ることの大切さについて考えようとする事ができる。

**3 本小単元の評価基準とキャリア教育を通して育みたい力（評価規準マトリクス）**

中学年の基礎的汎用的能力（夢4）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人や社会と関わる力  【人間関係形成・社会形成能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の気持ちを理解し、協力して取り組もうとする力</li> <li>・自分の生活を支えてくれている人がいることに気付く力</li> </ul>	①小笠原村の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、小笠原村の様子を理解している。		
自分をみつめる力  【自己理解・自己管理能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを見付ける力</li> <li>・よいと思うことを考え、すすんで取り組む力</li> </ul>		①小笠原村の位置や自然環境、小笠原村の人々の活動や産業と小笠原村の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その特色を考え、適切に表現している。	
課題をやりぬく力  【課題対応能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもち、計画を立てて実行する力</li> <li>・自分の役割に責任をもってやり遂げる力</li> </ul>	②調べたことをスライド資料にまとめ、小笠原村では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②小笠原の位置や自然環境、人々の協力関係などに着目をして、問いを見いだし、小笠原村の様子について考え、表現している。	①小笠原の様子について、予想や学習問題を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
次につなげる力  【キャリアプランニング能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活や学習を通して、働くことの楽しさを発見する力</li> <li>・学習と生活が将来の生き方に関係していることに気付く力</li> </ul>			②東京都民の一人として、小笠原の自然環境の素晴らしさや、それを守ることの大切さについて考えようとしている。

※キャリア教育と関連が密接なものは**ゴシック体・太字**

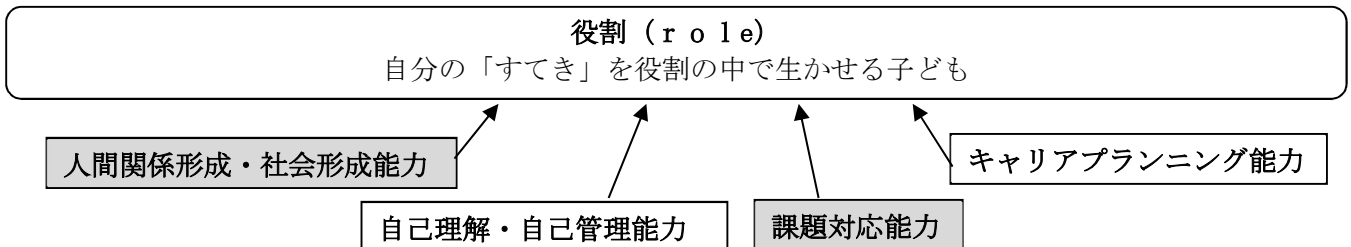
## 4 部会提案

### (1) 児童の実態と単元観




学習問題を自分事として捉え、予想し、調べ、納得していく問題解決的な流れを通年で行っている。適切な資料を見付け、的確な情報を得る力は身に付いてきているが、その情報が示す社会的事象への多様な見方・考え方は生まれてきにくい。小笠原の人々の活動や産業、地域の発展を関連付けて考えたり、自分たちの住む地域の様子と比較したりすることで、社会的な課題を自分事として見つめさせたい。

キャリア教育の観点では、この小単元を通して「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応能力」を育てていきたい。「つかむ」段階では、小笠原への興味関心を高めて学習に取り掛かれるよう、ゲストティーチャーである小笠原観光局の方から、島の様子の概要を知る機会を設けた。未知の場所を、学びによって関係付けられる手段とした。そして、学習問題を明確にした後は、児童一人一人の「知りたい」「伝えたい」を可能とする学習計画にした。そうすることで、友達の発表を「聞きたい」というニーズも高まっていき、聞いてもらうためには、どのようにプレゼンテーション能力を高め、充実した内容にしていくかを発表者が考えていく。グループで見合い、磨き合うことでのブラッシュアップにも期待したい。児童の「～たい」を実現していくことこそ「課題対応能力」の育成につながると考えた。

### (2) 中学年の目指す児童像と本単元で重点となる基礎的・汎用的能力





### (3) 本単元で目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】：小笠原を身近に感じ、「魅力ある場所」と誇れる一都民となる</p> <p>○外部人材の活用</p> <p>簡単には行けない場所、見て確かめることのできない場所だからといって、受け売りの情報だけでの知識・理解に陥らないよう、小笠原観光局とつながり、協力いただくことで、自分たちの学びを深めたり、確認したりできるようにした。</p> <p>○導入の工夫</p> <p>観光局の方から小笠原での「当たり前の日常」を知ることで、同じ東京都でありながら、自分が住んでいる地域の日常とのギャップに気付かせ、小笠原の学習への知的好奇心をかきたてていく。</p>	<p>【夢4】</p> 
<p>【手だて2】：自分の「知りたい」を、意味ある発表につなげるために</p> <p>○課題別学習の時間設定</p> <p>学習問題を解決する手順を身に付けてきた経験を生かし、本単元は興味・関心をもったテーマ別にグループを構成し、調べ、学びを深め、発表の形に整えるまでを各々のグループで進められるようにした。</p> <p>○グループ学習による磨き合い</p> <p>発表の内容、聞こえ方、スライド資料の見やすさなどを、類似テーマグループ同士で見合い、質問、良かったところ、改善点などを出し合い、評価し合う機会を設けた。このプロセスを経て、観光局の方に自分たちの学んだ小笠原の姿を伝えることとする。</p>	<p>【夢4】</p>  

5 指導計画（全10時間）

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 基礎的・汎用的能力
つかむ	1	小笠原村に興味・関心をもち、その位置や気候の様子などを理解する。	○小笠原村の概要を知る。 ○小笠原村の当たり前の日常の様子について観光局の方から話を聞く。	◆町田との違いを感じさせられるような資料を提示する。 ◆ <u>観光局の方の小笠原への思いや学ぶ人への願いなどをインタビューする。</u>	【主①】 
	2	小笠原の魅力に関心をもち、学習問題、学習計画をつくる。	○「魅力」の観点を出し合う。  ○調べてみたいこと、疑問に思ったことを出し合い、話し合う。 ○学習問題をつくる。 ○学習問題に対する予想をする。 ○学習計画を立てる。	◆農業・漁業、観光業、世界自然遺産、自然保護等の括りで整理する。 ◆小笠原固有の動植物や名産品についても触れる。  ◆ <u>興味・関心のあるテーマでグループを構成し、学習計画を立てさせる。</u>	【思・判・表②】   【主①】 
高める	3 4 5 6 7	テーマに沿って調べ学習を進め、スライド資料にまとめる。	○スライド資料で伝える内容や構成を知り、得た情報を的確に伝えられるスライド資料づくりをする。	◆スライド資料作成における留意点を伝える。 ・図や写真の活用 ・見やすさを考えた表現 ・数値による具体性 ・内容の説明に責任をもつ。 ・ <u>その魅力は人々の工夫や努力によるものであることに触れている。</u> ・スライド資料枚数の制限 ◆適切な資料や触れてほしい内容へのアプローチを行う。	【思・判・表②】  【知・技①】 

8	<p>グループで作成したスライド資料をペアグループで見合い、磨き合う。</p>	<p>○相手のスライド資料作品を評価する。 ○改善点が見付かった場合には修正する。</p> <p>○観光局の方に聞きたいことをまとめる。</p>	<p>◆<u>良いところ、分かりづらいところ、アドバイス等を鑑賞カードに記録させておき、発表したり相手のグループが作品の改善をする場合に活用させたりする。</u></p> <p>◆調べて分からなかったこと、より確かになりたいことなどの考えをまとめさせる。</p>	<p>【知・技②】</p>  <p>【思・判・表②】</p> 
9 (本時)	<p>小笠原の人々の自然環境を生かした暮らしの工夫や努力について発表する。</p>	<p>○完成したスライド資料をグループごとに発表し、評価し合う。</p> <p>○小笠原観光局の方に講評をいただく。 ○観光局の方に質問を行う。</p>	<p>◆<u>前時のペア班交流を経て、改善された点や伝わってきた魅力や工夫・努力を評価させる。</u></p> <p>◆<u>小笠原は遠いけれど、この学習をして少しでも近いものと感じられる交流になるよう配慮する。</u></p> <p>◆講評の中に、「君たちはこの町のどういうところが好きですか？」という問いを入れてもらい、自分たちの町についての思いを喚起させる。</p>	<p>【思・判・表②】</p>  <p>【知・技②】</p> 
10	<p>小笠原の自然環境の素晴らしさやそれを守ることの大切さについて振り返ると同時に自分たちの町の魅力を再認識する。</p>	<p>○各グループの発表や観光局の方の話を受けて、保護・活用されながら魅力を発信している小笠原について振り返る。</p> <p>○「この町のここが好き」と言えるポイントを理由も添えて紹介する。</p>	<p>◆<u>前時の問いに答えるような形式でまとめられるよう、観光局の方への手紙になるようなワークシートを用意する。</u></p>	<p>【知・技②】</p> <p>【主②】</p> <p>【思・判・表①】</p>   

※波線はキャリア教育の視点

## 6 本時の学習（10時間扱いの9時間目）



### (1) 本時の目標

調べたことをスライド資料にまとめ、小笠原村では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを表現したり、理解したりできるようにする。

### (2) キャリア教育の重点

◎見いだした問いを解決するために、調べ、理解し、考えたことを観光局の人に発表し、講評を通して、問いの理解をより深める力を育む。【課題対応能力】

### (3) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 5分	1 前時までの学習内容を振り返る。  2 本時のめあてを確認する。	【全体】 ・ 掲示物 ・ プロジェクター	○教室掲示やプロジェクターで学習してきた内容を提示する。
小笠原諸島の人々の自然環境を生かしたくらしの工夫や努力について発表しよう			
展開 3 5分	3 班で作成したスライド資料を学級と小笠原村観光局の方に発表する。 ・それぞれの班のテーマについて発表する。 ・発表している班以外の班は鑑賞カードに前時から改善された点や伝わってきた魅力や工夫・努力等を記載する。	【全体】 ・ クロムブック ・ ワークシート	○互いの発表内容が聞きやすく関わりがもちやすい場の工夫をする。  ●小笠原の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、小笠原の様子について考え、表現している。【思・判・表②】 
まとめ 5分	4 小笠原村観光局の方に指導・講評をしてもらう。 ・温暖な気候に合わせた農業を行っていることが紹介されていてよかった。 ・実は世界自然遺産を生かして様々なエコツーリズムを行っている。 ・カントリーコードをもっと紹介してほしい。  5 小笠原村の観光局の方に質問を行う。 ・どうして、農業が盛んなのですか。 ・世界自然遺産を守るために行っていることはなんですか。 ・観光客に来てもらうために行っている工夫はなんですか。		●調べたことをスライド資料にまとめ、小笠原村では人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。【知・技②】  ○直接外部人材に質問を行うことで、更に小笠原諸島について知ろうという意欲を引き出す。
	6 本時の振り返りを行う。 ・直接小笠原村の観光局の方と話せたことで、小笠原諸島の人々の工夫や努力を更に知ることができた。 ・自分たちにできることはないか、考えてみたい。	【全体】 ・ 発表	

※波線はキャリア教育の視点

## 7 板書計画

小笠原諸島の人々の自然環境を生かした

くらしの工夫や努力について発表しよう

発表プログラム  
(例)

- ・ 農業
- ・ 漁業
- ・ 観光
- ・ 世界遺産
- ・ 島特有の動植物

観光局への  
質問カード

観光局への  
質問カード

観光局への  
質問カード

スクリーン

